

<全体分析>

試験時間

120分

解答形式

記述式とマーク式の併用。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

読解総合、英作文、聞き取り、文法・語法、英文解釈の各分野から出題されている。

その他トピックス

- ・リスニングでは、2022年度に出題されなかった会話を素材とした問題が出題された。
- ・2(A)の作文のテーマは、2008年度の2(B)のテーマとほぼ同じだった。
- ・4(A)の本文の分量が、2022年度と比べかなり減少した。
- ・5は、例年900~1,000語程度なのに、2023年度は約800語で、かなり減少した。

英語

東京大学（前期） 2/3

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1(A)	読解総合	「時間不足に悩まされる現代人」 (417 words)	英文の内容を 70～80 字で要約する問題。本文は内容的には決して難しくはないが、論点を取捨選択し、整理した形で制限字数以内に答案をまとめるのにかなり苦勞する。 《出典》 James Wallman, “Why We’re All So Worried About Having Too Little Time” <i>Time</i> , January 30, 2020	やや難
1(B)	読解総合	「様々な種類の笑いが人間関係に及ぼす影響」 (1,035 words (本文 913 words + 空所 12 words + 選択肢 110 words))	2022 年度同様、文補充問題 (ア) と語句整序問題 (イ) が出題された。本文は若干長くなった。(ア) は 5 箇所。ダミー選択肢は 2 つに増えた。(イ) の語数は 12 語 (並べ替える要素の数は 10) で、難易度は標準的。 《出典》 David Robson, “The real reason we laugh and what different types of laughter means”, <i>New Scientist</i> (December 15, 2021)	標準
2(A)	英作文	意見論述 (60～80 words)	「30 年後の移動手段」についての考えを、理由を添えて書くことが求められた。2008 年度に東大入試で出された「今後 50 年の間に起こる交通手段の変化と生活に与える影響」に関する意見論述問題と同じ方向性の出題である。	標準
2(B)	英作文	和文英訳	草光俊雄『歴史の工房 英国で学んだこと』からの引用を英訳することが求められた。一部、表現を工夫しないといけない箇所があったが、とりたてて難しいものではなかった。	標準
3(A)	聞き取り	「伝書鳩の帰巣特性について」 (382 words)	テーマについての研究の紹介を素材とした問題。全体的に迷うところの少ない問題であった。 《出典》 Robin Donovan, “Homing Pigeons Remember Routes for Years” <i>Scientific American</i> , March 1, 2022	標準
3(B)	聞き取り	「大気中の二酸化炭素を減らす取り組みについて」 (555 words)	ケルプを用いた二酸化炭素削減の実用化に関する文章を素材とした問題。 《出典》 Robinson Meyer, “Kelp Is Weirdly Great at Sucking Carbon out of the Sky” <i>The Atlantic</i> , May 25, 2022	標準
3(C)	聞き取り	「脱成長 (degrowth) について」 (634 words)	本の著者をゲストに迎えたラジオ番組の一部を素材としたインタビュー形式の問題。 《出典》 “FreshEd #214 Less is More (Jason Hickel)” <i>The FreshEd Podcast</i> , https://freshedpodcast.com/jasonhickel	標準

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
4(A)	文法・語法	正誤問題 「言語の非中立性」 (481 words)	2019 年度から続いて正誤問題が出題されている。 標準的な文法・語法の知識があれば対応できるものになっている。 《出典》 Stephanie Rudwick, <i>The Ambiguity of English as a Lingua Franca: Politics of Language and Race</i> (2021)	標準
4(B)	英文解釈	下線部和訳 「コンフォート・フードについて」 (343 words)	下線部は3つ。2023 年度は内容明示を求める設問が含まれていなかった。おおむね文構造は把握しやすく、日本語にしやすい。 《出典》 “Cupboard love --- Unwrapping the Comfort In Food” <i>The British Psychological Society</i> , March 22, 2022	標準
5	読解総合	「刑務所廃止論者の話に対する子どもたちの反応」 (808 words)	2022 年度に続きエッセイ色の強い素材からの出題となった。記述式の設問としては、説明問題が2問、語句整序問題が1問出題された。 《出典》 Rachel Kushner “Is Prison Necessary? Ruth Wilson Gilmore Might Change Your Mind” <i>The New York Times Magazine</i> , April 17, 2019	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 東大は、設問形式に毎年のように変化がある。よって、過去の多様な形式を踏まえて、さまざまな設問に取り組み、形式の変化に対応できるようにしておく必要がある。東大英語の攻略には全般的に以下のような対策をとっておかなければならない。
- 読解に関しては、設問形式にある程度の変動はあるものの、「文脈把握力」を主に要求している点では、根本的な部分に変わりはない。要求された課題を念頭に置いて、一定以上のスピードで英文を読み解き、必要な情報をまとめる練習が有効である。また、日本語表現能力を高めることも怠ってはならない。
- 作文に関しては、基本的な知識の正確な運用が求められている点は変わらない。今後も形式やレベルの変動があることは予想されるので、多様な形式で練習を積み、添削指導を受ける必要がある。
- リスニングに関しては、書き取りの練習なども取り入れ、基本的な聞き取り能力を養うことに加え、過去問演習を通して情報を整理しながら話の展開をつかむ力を養うようにしよう。